

(講評：高間 春彦氏)

# 「明」

つきはえて まどにさしこむ あかるいよ  
月映えて窓に差しこむ 明るい夜

成り立ち：日は窓を表し、月をさして、窓から月明かりが入りこむ様子

(参考URL：漢字トリビア「明」の成り立ち物語)  
[https://www.excite.co.jp/news/article/TokyoFm\\_N5eAQxi13/](https://www.excite.co.jp/news/article/TokyoFm_N5eAQxi13/)

千葉県 いすみ市立岬中学校二年

吉田 美咲さん

講評 吉田美咲さんは、「明」は窓からの月明かりであることに驚き、月の光を明るいと感じる古人の感性を、一つの情景として描き出しました。

# 「虹」

りゅうくだる ならないろのはし あめあがり  
竜くだる 七色の橋雨あがり

成り立ち：空にかかる大蛇、すなわち龍であると見立てられている字であること(参考文献：『成り立ちつながりで学ぶ 漢字シート35』)

京都府 立命館小学校五年

神野 莉沙さん

講評 神野莉沙さんは、「虹」を竜と関わらせた古人の感性を面白く感じ、その面白さを「虹」という言葉をあえて使わず、なぞなぞ風に表現しました。

# 「進」

とりにとり まよったときの まいしんろ  
鳥に問う迷った時の my 進路

成り立ち：鳥口によって軍隊の進退を決め、進軍兵隊(と) (参考文献：『白川静博士の漢字の世界へ』)

京都府 立命館小学校五年

松田 星来さん

講評 松田星来さんは、軍隊の進路という重要なものが鳥口によって決められたことに驚き、その驚きを自分の「進路」に置きかえて表現しました。

## 小・中学生の部 優秀賞 漢字作文部門

(講評：宮下 奈都氏)

### 漢字なんて

福井県 福井市明道中学校一年

酒井 翔太さん

僕は漢字を書くのが大嫌いだ。「なんで書き順なんてあるんだ。止め、はらいなんてやしてしまえばいいじゃないか」とツツツツ言いながら漢字の練習をしている。

しかし、白川文字学の本を見るのは好きである。時に柔かく、時には勇ましく、時には残こくに思える字もあるが、とても神秘的だ。酒たるを両手でささげもつ尊、神様に何を願ったのだろう。書くのは難しいが裁の十画目の長くなめに書く所が何となくかっこいい。何だか少しワルっぽい感じがする紅の字も好きだ。王に従わないものを攻めつつ討もまた強さや敵しさを感じ、寸の所を書く時は、気持ちがあすつきりする。

改めて好きな漢字を書き順通りに書いてみる。案外気持ちのいいものだ。漢字はアート。伝言しようとする力も宿る。いいじゃないか。

その、書く楽しさからー

講評 酒井翔太さんの漢字について

の内容よりも非常に文章がうまかった。ほんとうに中学一年生かと疑いたくなるほど書き慣れていて、センスがよかったです。

### 願いがこもった「楽」

福井県 福井市木田小学校六年

堀 凌太さん

僕の好きな漢字は「楽」です。その理由は、みんなで楽しくずっと平和にくらしたくないからです。調べてみて、「楽」の漢字のゆらいが思っていたのとはちがっていたので、おどろきました。「楽」という字の正字(旧字体)は、「樂」です。白の部分が鈴、その左右の糸は糸飾り。病気の時この手鈴を振って、病魔をほうろ祈りを神に行なったことからこの字になったと言われています。音楽の「ガク」は、シューマンが鈴を振って神を楽しませるので、音楽を楽しむという意味で音楽という漢字になったと言われています。ほ

くはみんなで楽しく笑顔ですごしたいという思いで、この漢字を選んだけど神に祈りをささげて神を楽しませるといふ深い意味があることばはまったく知りませんでした。ぼくには神を楽しませるといふことばは聞きなれど、そのかわりに、みんなを楽しませて、毎日楽しく過したいです。

講評 堀凌太さんの作文は、みんな楽しくくすくすと平和に暮らしたいという、小学生らしい素直な希望がほほえましい作品でした。

の希望がほほえましい作品でした。

### おなかの中の赤ちゃん

兵庫県 宝塚市立宝塚小学校四年

川端 泰寛さん

ぼくが、きょう味をもった漢字は「包」です。生まれ！わたしの漢字展に、書く漢字を考えていました。二学期になってたんにんの先生が来年の一月に赤ちゃんが生まれるので、十一月でたんにんの先生がかわると話がありました。その事をお母さんに話すと、ぼくがおなかの中にいたときのことを話してくれました。

ぼくは大きな赤ちゃんで三十九百七十gもあって、病院の人たちもとてもおどろいていたそうです。生まれる予定の日よりも五日もおそくて、その間に成長したんだったと思います。お母さんのおなかの中がとても気持ちよくて、のんびりゆったりくつろいでいたからだと、ぼくの名前の漢字に「寛」をつけたそうです。

「包」の漢字はおなかの中に赤ちゃんがいる様子をあらわしています。お母さんのおなかの中でゆったりのんびりくつろいでいるんだなあと思うと、かわいく見えてきました。

講評 川端泰寛さんの作文は、心があたたかくなるやさしい文章で、人柄のよさが滲み出ています。自由部門でも候補に残り、こちらも選考委員に愛されま

した。